

---

# 信じてる

ごはんライス

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
信じてる

【Nコード】  
N22460

【作者名】  
ごほんライス

【あらすじ】  
20枚完結予定。大アドリブ大会。雨宮と西田のお話。

雨宮太郎が学校を出たとき、確かに誰かにつけられていた。雨宮が後ろを振り返ると、誰かがさつと電柱に隠れた。サングラスとマスクしてるので誰かわからん。

「くそ。腹立つ」

石を投げたら誰かは逃げた。

雨宮が家に着いたときも腹が立った。西田が来ていたのだ。なんだ。さっきのはこいつだったのか。

「帰れよ」

「晩飯食ってから帰るよ」

西田は帰らない。飯食ったあと、風呂に入ってパジャマに着替えた。しかも、西田は雨宮の親父といっしょに酒を飲んでいる。高校生だぞ。いいのか。

「そうか。西田くんはサッカー部か。オレも若い頃、サッカーやってたよ」

「お父さんも！ポジションはどこです？」

「MFさ」

「ぼくもです！」

妙に盛り上がってるのがいまいましい。

結局、雨宮は床で寝る。西田は客なのでベッドってわけだ。

雨宮はごつつ疲れていたのですねすぐ寝てしまった。

しかし、すぐに目覚めた。西田のいびきがあまりにうるさいのだ。

「いまいましいなあ」

「ごおおおおお。がああああああ」

何の罰ゲームやねんと思う。

しかも西田は寝相も悪く、ベッドから転げ落ち、ボディが雨宮に直撃。「ぐはっ！」

雨宮は痛くて痛くてならない。ムカついて、西田の腹を蹴飛ばした。

「うーん。むにゃむにゃ。女王様。もつとお」

このど変態高校生め。

仕方なく雨宮は廊下で寝た。

朝が来た。目覚まし時計を見る。やばい。遅刻する。寝てるときに目覚まし止めてしまったか。

雨宮はドアを開け、西田を起こした。何でこいつ素っ裸なんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2246o/>

---

信じてる

2010年10月10日04時33分発行